

栄養茨城

FLASH No.20

発行日／令和4年3月16日

発行所／公益社団法人 茨城県栄養士会

〒310-0034 水戸市緑町3-5-35

TEL 029-228-1089 FAX 029-228-4271

http://www.ibarakiken-eiyoushikai.or.jp/

CONTENTS

会長あいさつ・役員改選	P1
受賞おめでとう・入会のすすめ	P2
私たちの職場紹介(病院・福祉・学校)	P3-5
栄養ケア・ステーション事業 ・つくば市食生活改善指導事業	P6
研修会報告	P7
事務局長就任挨拶・新入職員紹介 ・賛助会員活動一覧・連盟活動状況・編集後記	P8

2022年 新年をむかえて

公益社団法人茨城県栄養士会会長 入江三弥子



令和3年度をむかえて皆様お元気でしょうか。コロナ禍の影響が続く中、新しい生活ルール対応に奮闘してこられた1年だったと思います。栄養士会は、これまでの会員の資質向上の活動だけでなく、他医療職種や他団体と連携を深めて情報の共有や連携した事業への参加が求められ、多様化する課題に対応する事を問われています。しかしながら、人材を求めても応える方が少なく、人材の掘り起こしが重要な課題です。先頃管理栄養士を目指す若者にどうしてこの職を選んだのか聞く機会がありました。その答えに『誰かのために』『健康知識を身に付けた人になりたい』がありました。人のために働く人が目指す人物像で、それに管理栄養士の専門性が重なるという答えは、とても嬉しいことでした。若い人達が後から続いてくれていることは、有難いことです。これまで活動してこられた諸先輩方の情熱と実行力に通じるものです。経験を活かしてまだまだ活躍していただかなければなりません。充実した人生を目指して、頑張っていきましょう。

さて、食育基本法が2005年に成立施行から16年になります。家庭での健全な食習慣の確立、食文化の継承などが挙げられて、国や公共団体、教育・農業・食品関連事業者は様々な活動を行ってきました。食への関心が広まり食を取り巻く環境の変化も大きかったと思います。食料を海外に依存せず健康に安全な食糧の確保が当たり前の社会になってほしいと

思います。

国には食糧自給率を上げることに、その食糧の安全性に、全力で取り組んで欲しいと希望します。私たちも仲間と一緒に栄養改善活動に取り組んでいきましょう。

役員改選

令和3年5月20日(木)ザ・ヒロサワシティ会館において、公益社団法人茨城県栄養士会第10回定時総会並びに日本栄養士連盟茨城県支部総会が開催されました。その折、役員改選が行われ、次の通り選出されました。(文責 櫻井 ともみ)

公益社団法人茨城県栄養士会

会長 入江 三弥子
常務理事

総務部長	石川 祐一
組織部長	伊藤 久美子
事業部長	島田 亜紀美
学術部長	岩部 博子
広報部長	益子 慎司

日本栄養士連盟茨城県支部

名誉支部長	入江 三弥子
支部長	高橋 征子
副支部長	矢代 あや子
副支部長	稲葉 和枝
幹事長	田中 富美枝

受賞 おめでとう



永年の栄養士活動が認められ、令和3年度表彰された方々をお知らせします。
(敬称略)

栄養関係功労者

令和3年春の叙勲 旭日双光章

政安 静子



栄養改善功労賞（萩原賞）受賞者

(有)総合健康企画ヴィヴァン

小室 秀子

茨城県知事感謝状受賞者

・第十回定時総会

特別養護老人ホーム 飛羽ノ園

関 清美



・県民健康づくり表彰式
つくば国際大学

医療保健学部保健栄養学科

武 敏子

地域活動（ひたちなか市）

砂押 啓子

茨城県保健福祉部長感謝状受賞者

・第十回定時総会

地域活動（つくばみらい市）

草間 規子

地域活動（稲敷市）

根本 偉代

地域活動（鹿嶋市）

仙土 玲子

やまぶき居宅介護支援事業所

櫻井 栄子

健康づくり表彰式

特別養護老人ホーム 愛友園

矢代 あや子

特別養護老人ホーム みのり園

大賀 智子

前田病院

村瀬 貴子

茨城県栄養士会の「仲間」を増やしましょう！～入会のすすめ～

超高齢化社会を迎え、また地域共生社会の実現に向けて、管理栄養士の存在価値は高まる一方です。診療報酬、介護報酬改定ではいくつもの新たな評価がされています。しかし、日々の業務を推進する際に、仕事に行き詰ってしまうお知り合いの栄養士はいませんか？栄養士の職場は少人数の職場が多く、今の仕事のやり方に対する問題解決の場がない、最新の栄養関連の情報収集方法がわからない、といったお悩みをお持ちの方もいるのではないのでしょうか。

そこで、栄養士会への入会をお勧めし、入会していただくことで、これらの問題解決の一助とすることが期待できます。会員になることで、毎月1回、最新の栄養情報誌として「日本栄養士会雑誌」が、年1回「茨城県栄養士会会報」が会員宛送付されます。

さらに、各種研修会へ会員割引価格での参加が可能であることや、栄養士賠償保険（賠償額1億円）に自動的に加入となり、業務上で発生した事故への対応も安心です。

茨城県栄養士会には約1000人の仲間がいます。今後、コロナ感染が終息すれば、集合型の研修も再開され、会員間の交流の場が広がります。茨城県栄養士会は、栄養士の皆さんの業務上のサポート役になれることを目指しています。ぜひ未入会の方へ声をさせていただき、仲間を増やすことで、活力ある茨城県栄養士会としていきたいと考えております。

(文責 石川 祐一)

ゆたかな食文化のコーディネーターとして
さわやかな集団を目指します

業務用食材の総合商社

URUNO
ウルノ商事株式会社

④ <http://www.uruno.co.jp/>

水戸本店	茨城県水戸市元吉田町 1077-2	TEL 029-304-2555	FAX 029-304-2030
つくば支店	茨城県土浦市鉦町 2-9-16	TEL 029-842-2001	FAX 029-842-2008
北関東支店	茨城県筑西市伊藤美 1937-1	TEL 0296-28-8020	FAX 0296-28-8022
東関東支店	千葉県富里市七栄 532-239	TEL 0476-91-2525	FAX 0476-92-2200
埼玉支店	埼玉県加須市北平野 770-1	TEL 0480-78-1321	FAX 0480-78-1322

私たちの職場紹介 = 病院編 =



茨城西南医療センター病院

管理栄養士 飯塚 真理子 さん

「患者サポートセンターでの管理栄養士の役割」

当院は令和2年度診療報酬改定に伴い、4月1日より患者サポートセンターを開設いたしました。患者サポ-



ートセンターは、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・事務が常駐し、リハビリスタッフ・ソーシャルワーカーなどの専門職が必要に応じて入院前から情報を把握し、入院・手術が決まった患者さんの抱える問題に対し、チームとなって医療を提供しています。

高齢化社会を迎えた今、低栄養が加わることで、フレイルへと状態を進行させ、サルコペニアやロコモティブシンドロームを引き起こす要因となります。特に近年では、ひとり暮らし高齢者の食生活が深刻化しており、食事回数や食事内容など、食生活は乱れがちです。さらに、サルコペニアを有する患者さんについては、術後の在院日数が長くなることが推測されることから、術前のサルコペニアの栄養状態と身体的フォローとして、体たんぱく質を維持するための栄養管理が必要であると考えます。

消化器外科では、入院前からの栄養不良は術後経過に大きな影響を及ぼし、感染症をはじめとする術後合併症の増加、創傷治癒の遷延、ADLの回復遅延などが生じることから予後不良となり得ます。また、栄養不良者の割合が多く、入院前に管理栄養士が関与し栄養介入することで、栄養状態を悪化させないように整えることが期待できます。

さらに、入院前の患者さんが普段どれくらい食べているかを本人や家族に確認し、アレルギーの有無や嗜好、義歯による理由などから入院時の食事内容を検討することや、栄養状態の維持・改善が必要な場合や糖尿病で術前の血糖コントロールが必要な場合など、様々なケースに対応しています。

これまで、当初からの問題点として入院前からの栄養状態に関する知識や実践が不十分であること、

さらには、食物アレルギー及び宗教上の理由による食品禁忌などに関して、入院後に問診するため食事対応に遅れが生じることもありました。そのため、入院前の栄養評価に関する情報及び食物アレルギー問診票のテンプレートを作成することで、再入院の患者さんであっても、迅速な対応が可能になりました。

管理栄養士は、患者サポートセンターを最大限に活用しながら入院前から患者さんの栄養状態や食事の情報を把握し対応することにより、入院時の栄養管理が強化されると思います。

当院は管理栄養士が7名勤務しており、限られた人数で多岐にわたる管理栄養士業務に従事する中で、患者サポートセンターに管理栄養士が常駐する事は業務の負担に繋がる要因でした。そこで、患者サポートセンターでの業務内容を明確にするために、週1回の管理栄養士ミーティングを利用し、環境整備として、業務内容の見直し及びタイムスケジュールや業務マニュアルの改定を行いました。そして、消化器や循環器などで栄養指導が必要な患者さんや摂食不良など、NST(栄養サポートチーム)介入が必要な患者さんでは、対象者をファイル形式でリスト化することで情報共有し、入院早期からの栄養管理が可能となり、栄養指導件数やNST(栄養サポートチーム)加算件数の増加に繋げることが出来ました。

昨年度より、診療科別の病棟カンファレンスに管理栄養士が参加するようになり、多職種と関わることで、情報共有が可能になり、栄養介入しやすい環境になりました。

入院から退院までに2回の栄養指導を目標にしており、1回目は病院食の紹介や食べ方について、2回目は退院を見据えた食事内容として、宅配食や栄養補助食品の紹介などを中心に指導しています。

今後も、病院管理栄養士として病院から在宅まで繋がる栄養管理を目指し、日々努力し研鑽に励みたいと思います。(文責 飯塚 真理子)



私たちの職場紹介 = 福祉編 =

特別養護老人ホーム グリーンハウス ひたちなか
管理栄養士 田口 ひろみ さん

当施設は、平成26年4月に開設され、特別養護老人ホーム70床・ショートステイ10床に加え、定員12名のデイサービスがあります。他には訪問看護ステーション、地域包括支援センターを併設しております。



【栄養管理の実施】

特養では、平均介護度4.0、平均年齢86.9歳と重度化・高齢化が進んでおり、食事に対する支援内容も個人によって大きく異なっています。そのため、喫食率・毎月の体重・受診時の採血データなどから栄養状態を評価し、利用者様一人ひとりに応じた栄養管理に努めています。

【多職種連携による食事観察】

食事提供は、利用者様の身体状況に合わせた5種類の食事形態（常食・一口・刻み・超刻み・ペースト食）から選び、食事量・疾病や嗜好などに配慮しています。また、ミールラウンドを行い、安全に食べられているか確認をします。食べ始めから食べ終わりまで利用者様の観察を行い、場合によっては、1人だけを見守ることもあります。利用者様の声を直接聞くことが出来る貴重な時間になっています。

利用者様の食事は、生活状態からも大きな影響を受けています。そのため、食事場面だけを見るのではなく、多職種から情報を収集し、食事時間外も含めた利用者様の課題把握に心掛けています。

【個人に合わせた食事提供】

嚥下機能が低下してくると、誤嚥や、食事摂取量の低下などの様々なリスクが高くなってきます。特にペースト食は残食が



多かったことから、思い切って品数を減らして少量でも確実に栄養が摂取できる内容に変更しました。

また、ペースト食でも食事を楽しんでいただける様に、ソフト食の取り組みも始めています。

【コロナウイルス感染症対策について】

現在、感染症対策として厨房職員が施設職員との接触を極力避ける配膳方法を行っています。感染者が出た場合に備え、 Disposable 食器の用意、ユニットで対応できるようにお湯で作れる補助食品などの備蓄もしています。また、利用者の座席の配置や消毒、感染影響力の高い飛沫が飛びやすい利用者を把握するように務めています。

【技能実習生の受け入れについて】

現在4名のベトナム人を介護技能実習生として受け入れております。最初こそ文化の違いを感じましたが、今では配膳、献立の説明などを職員と同じようにしています。



また、ベトナム料理をイベントで作って提供するなど、食を通して文化交流を行えるのも楽しみの一つです。日本料理とベトナム料理では似たような調味料があり、利用者様からも「美味しい」と評判です。

【今後の課題について（個人に適した食事提供）】

入所者様の経口摂取に関わる問題は様々です。刻みの野菜は食べられるが、肉が硬く食べられないなど、1種類の食事形態で全ての方に対応するのが難しく、食事形態が細分化されています。今後は「大きさ」ではなく「噛む力」に合わせた食事形態を厨房委託給食業者と協力し取り組んでいきたいと思ひます。

また、コロナ禍において、感染リスクや望まぬ変化、それらを回避するための様々な制約の中で、「その人らしさ」を保つために出来ることを日々模索していきたく思ひます。

(文責 田口 ひろみ)

私たちの職場紹介 = 学校編 =



ひたちなか市立美乃浜学園

栄養教諭 保立 貴博 さん

【施設の概要】

本校は、令和3年4月に阿字ヶ浦小学校、磯崎小学校、平磯小学校、阿字ヶ浦



中学校、平磯中学校の5校が統合して新設され、ひたちなか市の学校で初めての義務教育学校として開校しました。小中学生が1年生から9年生として、同じ校舎で学んでいます。児童生徒数(令和4年1月現在)は、小学生(前期課程)342名、後期課程(中学生)178名、合計520名で各学年2クラス・特別支援学級6クラスあり、教職員はすべて含めると62名おります。また、開校に併せて、学園の目の前にひたちなか海浜鉄道湊線の駅舎ができ、児童生徒の多くは列車通学をしています。そして、校舎の周りは美しい豊かな自然環境の中にあり、さつまいも畑に囲まれています。東側には太平洋の海原が望め、中世代白亜紀層の碧い海が広がっていて、北側には大型の貨物船が着岸する常陸那珂港があります。給食はこれまで、給食センターから配送されていましたが、本校の開校に伴い自校給食方式になり、10人の市採用の調理員(常勤1人、非常勤9人)で作っています。また、校舎内に調理室があるので、子供たちは給食を作っている様子を廊下の窓から間近に見ることができます。中には笑顔で調理員に手を振る子もいます。また、給食室の前には2学年4クラスが入ることができるランチルームがあります。

【学校給食日本一】

令和3年12月に行われた「第16回全国学校給食甲子園」(主催:認定NPO法人21世紀構想研究会)で本校が優勝し、茨城県勢としても初優勝を飾ることができました。本大会は1年に1度行われる学校給食の全国大会です。給食に携わっている全国の栄養教諭・学校栄養職員、調理員が地域で生産される様々な地場産物を活用し、独自の工夫で栄養価の高い給食を競う大会です。昨年と今年の大会は、新型コロナウイルス感染予防のため、オンラインで行われました。今回、茨城県が農業産出額全国第3位の農業県であることをアピールし、



献立の使用食材全34品のうち25品を県内産の食材を使用したことや、献立で使用した干しいもについて、さつまいもの栽培から、加工、食べるまでの体験をストーリー化するなど、食育においても力を入れていることなどが評価され、応募数1,355校の中から選ばれました。

【応募献立について】

今回の献立は、茨城の食材をふんだんに使うことで、郷土愛を育み、地場産の理解を深めることをねらいとしました。「干しいもとちりめんじゃこの混ぜごはん」は、全国シェア90%を占める干しいもと常陸沖産のちりめんじゃこを使用しました。県のブランド地鶏「奥久慈しゃも」と生産量日本一のれんこんを炒めた「奥久慈しゃもとれんこんのかみかみソテー」は、こりこりした歯ごたえのしゃも肉とシャキッとしたれんこんの異なる食感を楽しめる料理です。常陸沖で獲れるたこは総称して「さくらだこ」と呼ばれますが、ひたちなか市はたこの加工量が日本一です。「茨城彩り野菜とさくらたこの梅香さっぱりあえ」は、地元で水揚げされたたこをスライスして地場野菜を加え、生産量全国2位の梨のすりおろしと水戸名物の梅をあえました。豚汁に使ったのは、たっぷりの県産野菜と県のブランド豚肉「常陸の輝き」です。豆乳ときな粉でまろやかさを加え、あおさで香りを出すことで、みその使用量を減らし減塩に努めました。デザートには、ひたちなか市特産のつる付きいちご「バインベリー」を添えました。この献立は実際に令和3年12月1日の本校の給食で子供たちに提供し、ひたちなか市長や教育長らをお招きし味わってもらいました。



【今後の抱負】

今は新型コロナウイルス感染予防で黙食をしているため、ランチルームをほとんど活用できていませんが、感染症が落ち着いたら、異学年の縦割り班給食や、保護者や地域の方への給食試食会などができたらと思っています。また、今後も全国に誇る茨城県のおいしい食材をいかした学校給食の献立を作成し、茨城のよさを実感し、ふるさとを誇りに思い、生涯にわたって食生活を自己管理できる子供たちを育成していきたいです。

(文責 保立 貴博)

栄養ケア・ステーションについて

～地域の食の課題に取り組む～

「栄養ケア・ステーション」は地域活動の者にとって特に関わりが深いです。しかし、どのようにどう関わっているのか、よく分からないのが実情ではないでしょうか。

「栄養ケア・ステーション」は、食・栄養の専門職である管理栄養士・栄養士が活躍する場として栄養士の紹介やサービスを提供しており、全国に344拠点あります。都道府県栄養士会の「栄養ケア・ステーション」と「認定栄養ケア・ステーション」の2種類があります。「認定栄養ケア・ステーション」とは、医療機関や保険薬局、介護サービス事業所などが日本栄養士会の認定を受けたもので、県栄養士会と協力して活動しています。茨城県内では令和3年度現在で9事業所の登録があります。(内2-機能強化型)

本会では、会員が「人材登録書」を提出することで「栄養ケア・ステーション」のメンバーに登録されます。人材登録簿は毎年更新され、人材登録書は毎年提出が原則です。登録後は茨城県栄養士会に要

請された事業に該当する人材として派遣されることとなります。具体的には本紙面でも紹介している『つくば市食生活改善指導事業』をはじめ、食育教室、介護予防事業など様々な事業の派遣がありました。登録して活動することが自身の経験を増やし、業務の幅を広げることに繋がります。現在の登録数は他職域で常勤の方も含め100名弱で、そのうち地域活動専門研究会では約20名程です。派遣要請があっても、常勤の方ではその要望に応えにくいようです。

「栄養ケア・ステーション」こそ、地域活動栄養士の出番です。是非、多くの方に登録をしてもらって活動をしていただきたいです。

「栄養士に食事の話を知りたい、仕事を頼みたいけれど、どこに栄養士がいるのか分からない」それを解決するためにつくられた「栄養ケア・ステーション」ですが、一般的にはほぼ認知されておらず、まずは「栄養ケア・ステーション」の知名度を上げていく必要があります、私たち自身が理解を深めて活動していくことが大切だと思います。積極的に「栄養ケア・ステーション」に関わり、栄養士としての活動の場を広げていきましょう。(文責 埴 良子)

つくば市食生活改善指導事業

つくば市委託「食生活改善事業」が令和元年度から行われてきました。この事業はフレイルを予防し健康寿命の延伸を



支援するのが目的で、対象となるのはBMI 21.5以下、70歳以上の高齢者です。今年度は25名が参加し、うち約4割が高血圧、腎症、糖尿病、などの慢性疾患で医療機関を受診していました。かかりつけ医と連携し治療情報の提供を受けて、栄養士活動人材登録をした15名が4か月間指導を行いました。

集団指導では「フレイルとは」「栄養バランスの良い食事の摂り方」「運動の種類とその効果」を指導しました。又、体組成、握力の計測と、開眼片足立ち秒数の計測を行いました。個別指導では、質問票でフレイルに該当するかどうかを把握しました。そして、個人に合わせた行動目標を参加者と一緒に考えながら設定し、面談の都度、個々人の状態に合

わせた助言・指導を行いました。また、食生活情報と健診データを用いて栄養状態の評価をしました。

対象者は、生活習慣病の他、胃切除後の低栄養、味覚異常、脊柱管狭窄症、腰痛、膝痛など高齢者に特徴的な症状がみられました。このため、フレイルを予防するための食事と運動に簡単に取り組めないという指導上の難しさがありました。他方、健康意識とモチベーションが高い方が多く、身体状況や食習慣を踏まえた改善事項を提案すると、目標を自ら挙げるなど積極的に取り組んでいました。参加者からは「体重が増加した」、「膝痛、腰痛があってもできる運動を知り実践している」などの声を聞きました。これは、会員が、それぞれの得意分野を共有・連携して指導した成果と思います。地域には必要な栄養指導を受ける機会がない方が多いと日頃のフリー活動で感じています。



(文責 佐藤 光恵)



研修会報告



第10回定時総会・研修会

ザ・ヒロサワシティ会館（県民文化センター）にて第10回定時総会（令和2年度事業報告、役員改選、令和3年度事業計画等の議事）が開催されました。

研修会では、駒沢女子大学健康栄養学科 教授 西村一弘先生より「介護報酬改定から見える栄養ケア・ステーションへの期待」についてご講演頂きました。次に、茨城県保健福祉部長寿福祉推進課介護保険指導担当の吉田信寛先生より「介護報酬改定の取り扱いについて」の説明がありました。急速な超高齢化社会の中で、食事と栄養は国民の健康維持、介護予防、国費軽減策として今後も大きな期待を背負っていきます。食と関わる他職種と連携し、体制を整えて、栄養士・管理栄養士の専門性を生かしていきたいところです。（文責 島田 亜紀美）

新任研修会

茨城県保健衛生会館にて、41名（オンライン研修を含む）が受講しました。日本栄養士会下浦佳之専務理事の「専門職としての職業倫理について」の講演では、専門職としての重要性や役割、国民の現状と栄養に関する課題、プロフェッショナルとしての責任を再確認しました。栄養士・管理栄養士は対象者のライフステージにおいて、食事や健康状態へ関与する重要な役割を担っています。日頃から職業倫理を意識して、責任をもって業務に当たりたいとの感想がありました。やまぶき居宅介護支援事業所の櫻井栄子先生より、『「介護報酬改定」に関わる基礎知識』についてご講演頂きました。さらに、茨城県保健福祉部生活衛生課食の安全対策室室長の仁藤健二先生より、「衛生管理について」ご講話を頂きました。大量調理給食施設における衛生管理は、栄養士・管理栄養士としての業務の中で基本となるものですが、現場で活用するためには、単に知識を蓄積するだけでなく、判断力と行動力が問われます。根拠に基づいた正しい情報を受けて、日頃の業務に生かしましょう。（文責 島田 亜紀美）

生涯教育研修会

第1回は茨城県立青少年会館、第2回はWeb配信にて開催されました。第1回研修会では、鯉淵学園農業栄養専門学校講師の長谷川陽子先生より「栄養ケア・マネジメント」の基本編、実践編として、ご講話を頂き、演習編とQ&A編では、現場で悩んでいる事例など情報を共有し、理解を深めました。第2回研修会では、株式会社THF代表取締役社長の田中喜代次先生から「運動時における熱中症の防止策について」、減塩推進の必要性と落とし穴、ヘルスリテラシー、塩分喪失が原因となる症状への対策など、ご講義を頂きました。茨城県立医療大学保健医療学部看護学科准教授の本村美和先生から「高齢者の摂食・嚥下機能」として、高齢者の口腔状態と摂食嚥下障害、嚥下調整食の学会分類、調整食の施設への導入方法についてご講義頂きました。対象者の口腔状態によって食事の形態を決定し、QOLや食事の楽しみを奪うことのないよう、他職種と連携して適切な食事を提供していきたいとの感想が寄せられました。（文責 島田 亜紀美）

茨城県栄養士会 最新情報配信中!

茨城県栄養士会のSNSにて

研修会情報・最新情報は配信中!

*ホームページ

<http://www.ibarakiken-eiyoushikai.or.jp>

*LINE 「茨城県栄養士会」で検索

*Twitter 「@ibaei_info」または「茨城県栄養士会」で検索



Yakult

生きて腸にとどく
乳酸菌 シロタ株

[65ml] [65ml]

水戸ヤクルト販売株式会社 古河ヤクルト販売株式会社
いわきヤクルト販売株式会社 千葉県ヤクルト販売株式会社

〔商品に関するお問い合わせ〕ヤクルトお客さま相談センター

☎ 0120-11-8960 携帯電話からは ☎ 0570-00-8960 (有料)へ
受付時間 10:00~16:00 (土日・祝日・夏季休業・年末年始等を除く) ※時間を短縮しております。

連盟活動状況

令和3年度は、本来ならば県知事選や衆議院選でとても忙しい年になるはずでした。

9月の知事選では、役員が選挙事務所に伺い応援の意を示すことになっていました。初日の演説の時も応援に駆けつける手はずでした。

しかし、コロナ禍のなか、すべての活動を中止せざるをえませんでした。

そして、次の、衆議院選の時は、各地区の役員がそれぞれの候補者の集会に参加し、微力ながら存在を示すことができました。

公益社団法人である栄養士会は、政治的なことに表立って動くことはできません。しかし連盟は栄養士会員の存在と活動をアピールするものであると思いい、活動することができます。

選挙は、政治家が議員になれるかどうかを決めるとても重要なものです。私達は、各候補者に栄養士の活動を理解してもらい、存在を認めさせるチャンスなのです。これが連盟の大事な仕事だと思っています。

各種国家資格専門職は、各々社会的地位向上のために政治活動を展開しています。今年度は、参院選があります。連盟は引き続き私たちの活動を支援して下さる議員の応援をしていきたいと思っています。

令和4年度は、コロナが落ち着き、一日も早く通常の活動ができる日が来ることを切に願います。

(文責 田中 富美枝)

事務局長就任挨拶

本年度、栄養士会事務局長を拝命いたしました。

17、8年前、私が県自然博物館勤務の折、博物館の開設に関わった方々の懇親会が開催されましたが、その中に当時の栄養士会会長の高橋征子さん（現連盟支部長）がいらっしやり、その時に栄養士会のお話をいろいろお聞きしたことが懐かしく思い出され、不思議な縁を感じております。日にちも過ぎ、会も公益法人となり時代は大きく変化しましたが、会員や役職員の皆様の栄養士業務に対する意欲と情熱は変わらずに今に至っていることを感じています。

(文責 坂巻 喜好)



新入職員紹介

茨城県栄養士会事務局に、宮本の産休代替として、三村由香が入職いたしました。主に会計・つくば市事業・生涯教育・ヘルシーメニューなどを担当しております。

令和4年6月までの短い期間ですが、どうぞよろしくお願い致します。(文責 櫻井 ともみ)

編集後記

新型コロナウイルスが依然として世界の猛威を振り、社会の在り方も変わり、活動に影響を及ぼしました。今年度は介護報酬改定、次年度には診療報酬改定を控え私たち栄養士・管理栄養士は新たなステージに挑むこととなります。

研修開催の調整を図る中で、多くの仲間達が業務に不安を抱えながら日々奮闘している実態を目の当たりにしました。対面研修ができなかった中、研修にご参加くださった皆様が少しずつ安堵の表情になっていくのを画面越しに見て繋がり大切さを再認識しました。

ウィズコロナの時代だからこそ、「栄養士会に入会してよかった。」会員の皆様からそんな声が増えたら幸いです。今後ともよろしくお願い致します。(文責 益子 慎司)

賛助会員活動一覧

◎ 商品展示 総会	11 社
◎ 広告バナー	8 社
◎ 広告掲載 総会資料 栄養茨城 (FLASH)	3 社 2 社
◎ 広告チラシ	4 社